【若手研究奨励賞候補:はい】

機械学習による変形ARマーカの位置姿勢推定

○榎元洋平†, 山内悠嗣‡

O Yohei ENOMOTO † and Yuji YAMAUCHI ‡

†:中部大学理工学研究科, tr21004-4551@sti.chubu.ac.jp ‡:Soho Corporation, taylor@soho.com

<要約>これは、【提出物 1】申込み用講演概要原稿(およそ 2 ページ)の様式です. <キーワード>〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇(キーワードを $3\sim5$ 語お書き下さい)

1 若手研究奨励賞について

2022年3月3日時点で35歳以下の発表者は,若手研究奨励賞の候補となります.候補者は,タイトル上にある選択肢の「はい」を残してください(いいえを削除してください).そうでない方は,「いいえ」を残してください(「はい」を削除してください).

2 講演申込み手順

2.1 OpenConfで ID 番号の取得

DIA2022 のホームページ (http://www.tc-iaip.org/dia/2022/) にある「講演申込」からか,次の URL 先 (https://www.tc-iaip.org/dia/2022/openconf/) より OpenConf へアクセスし、「サブミッションの作成」で必要事項を入力して ID 番号を発行してください.

2.2 申込み用講演概要原稿の作成

【提出物 1】申込み用講演概要原稿は、A4 用紙 2ページ程度で発表内容を分かりやすく、発表内容が十分理解できるように記述して下さい。図、グラフ等を用いても結構です。

2.3 申込み用講演概要原稿のアップロード

OpenConf ヘアクセスし、発行した ID 番号と自分で設定したパスワードを使用して「ファイルのアップロード」より【提出物 1】申込み用講演概要原稿をアップロードして下さい.アップロードするファイルは PDF形式で、5MB 以下として下さい.

提出期限は,2021年12月3日(金)です!

2.4 講演形式

講演形式(インタラクティブ/オーラルセッション) についてはプログラム委員会で決定します.ご希望に 添えない場合もございます.予めご了承下さい.1月中 旬までにご連絡いたします.

3 原稿の構成と体裁

3.1 用紙の設定

用紙は A4, 余白は上 30mm, 下 30mm, 左 20mm, 右 20mm です.

3.2 原稿の構成

原稿は、表題欄、著者欄、要約欄、本文欄、参考文 献欄などから構成されています.

3.3 表題欄の体裁

表題欄は上から 30mm, 1 段組でセンタリングとします. 文字は 14 ポイント, 改行は 21 ポイント, 書体はゴシック体の太文字を使用してください. 副題は, "-" (ハイフン) ではさむなど, 適宜処理してください.

3.4 著者欄の体裁

著者欄は上から 50mm, 1 段組でセンタリング. 最初 に著者名(+連名者),次の行に所属をお書きください. 文字は 12 ポイント,改行は 18 ポイント. 表題欄 との間隔は 10mm 程度にしてください.

3.5 要約欄の体裁

要約欄は1段組で均等配置とします. 文字は10ポイント, 改行は15ポイントです. 先頭は全角1文字程度

下げてください. 著者欄との間隔が 10mm 程度となる ように調整してください.

表 1 原稿の長さ

(1) 申込み用講演概要原稿

2ページ (カラー可)

3.6 本文の体裁

本文は 2 段組で均等配置とします。章タイトルは字下げせず、1.2.3.…とし、文字は 12 ポイントとして下さい。節は 2.1, 2.2, 2.3…とし、段落開始時には 1 字下げてください。文字の大きさは 10 ポイント、改行幅は 15 ポイントです。文字数は全角 23 文字/行/カラムです。 2 頁以降は 48 行/カラムです。

3.7 図・表,写真の体裁

鮮明なものをご用意ください. また,図・表内の文字は小さくなりすぎないよう注意してください.



漢字の場合は8ポイントが限界です.

4 お問い合わせ先

何か問題が生じた場合には、OpenConf の「お問い合わせ」からか、以下の事務局にご相談下さい.

アドコム・メディア (株)内

画像応用技術専門委員会事務局 「DIA2022」係

〒 169-0073 新宿区百人町 2-21-27

TEL: 03-3367-0571

e-mail: iaip@adcom-media.co.jp

参考文献

- [1] 寺田賢治:"動的画像処理",動的画像処理実利用 化ワークショップ 2018 講演論文集,Vol.1, No23, pp.456-789 (2018)
- [2] 寺田賢治: "密集する不定形状な泡の計数", 外観検査 アルゴリズムコンテスト, Vol.9, No.8, pp.765-4321 (2015)